

平成30年 **1**月の大阪森林便り



今月の木の話

木材の弾力性は人間にピッタリ

- ・木材には弾力性、つまり衝撃をある程度吸収するという性質があります。
- ・木材は圧縮強度が高いために、ぽきりと折れたりかけたりすることが少ないのです。
- ・アオダモがプロ野球選手のバット用材に使われるのは、単に球を打ち返すだけの強さがあるだけではなく、手に伝わってくる衝撃力を吸収し、その衝撃感覚を鋭敏に手に伝えるだけの適度な粘りを持っているからです。
- ・アカガシが金づちなどの柄に使われるのは、衝撃力を吸収することに加えて、表面が適度にザラザラしていて汗を吸収しやすく滑りにくいからです。
- ・木材を使用した床の良さは、単に表面の見た目の美しさ、素足に感じる感触の良さ、適度な音、なじみやすさ、適度な滑り具合、保温性だけではありません。
- ・木構造の床は、体の奥で感じる歩行感、運動感についても歩きやすい、疲れないなどの特長をもっているのです。床の硬さは、柔らかすぎても硬すぎても、歩行感は悪くなります。
- ・木材は断面の大きさや樹種によって差はありますが、側面から力を受けると折れる前はかなりたわみ、力を抜くと元通りに戻る性質があります。
- ・このような状態を「しなる」とも言いますが、他の材料でみられる「たわみ」とは異なります。木材、竹などは「しなる」という言葉のあてはまる数少ない材料です。
- ・木材の「しなり」は、他の材料にはない緩やかな変形と戻りを持っていて、大引きや根太と床板という床を構成する木材の複合的な、適度な復元の強さが、最適なかたさをもたらすようです。

(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)





森林環境税 2024 年度に 自民税調方針、対象 6200 万人

- ・自民党税制調査会は、森林保全に使う「森林環境税」を 2024 年度から導入する方針。
- ・1 人当たり年間 1000 円を個人住民税に上乗せして徴収します。
- ・6200 万人程度が課税対象となり約 620 億円の財源となります。
- ・林道の整備、林業従事者の育成に活用します。
- ・森林面積などに応じて税収を自治体に振り分けます。

(2017 年 12 月 1 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



北米産丸太、1000ドル台に上昇、12月積み

- ・北米産丸太の対日輸出価格が一段高。12 月積みは 11 月積み比べて 5% 上昇。
- ・米国内の製材需要が堅調で輸出分の品薄が続いています。対日価格の上昇は 5 カ月連続。
- ・7 月のカナダの山火事の影響で原木不足が続き、在庫水準も増えていません。一方、米国内の建築需要は順調です。

(2017 年 12 月 8 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



木材・合板博物館 木材作り 技と香り楽しむ

- ・木材・合板博物館のある東京都江東区の新木場は、1970 年ごろに木場に代わる新たな材木の町として誕生。
- ・館内は森林にまつわる展示に始まります。国産木材を適度に使うことが二酸化炭素 (CO₂) を多く吸収する森林を育てると訴えます。

(2017 年 12 月 15 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



新税なぜ 1000 円 森林環境税 間伐費用から逆算

- ・森林環境税はなぜ年 1000 円なのでしょう。林野庁は手入れすべき私有林は年 10 数万ヘクタールあり、間伐に 1 ヘクタールあたり 40 万～50 万円かかると試算。関連諸経費を加え、約 600 億円の必要額をはじきました。
- ・住民税は東日本大震災の復興経費として、年 1000 円の負担を上乗せしており、その期限が切れる 2024 年度に森林環境税ができます。

- ・日本の国土は 3780 万ヘクタール。森林はうち 7 割近くを占めます。

(2017 年 12 月 31 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



南洋材合板、2017年初比3割高 住宅内装向け、需要底堅く 産地は原木不足、供給細る

- ・東南アジア産の南洋材合板の国内卸価格が上昇。普通合板は2017年初比で3割高くなりました。
 - ・住宅需要が底堅い一方、主産地インドネシアで原木不足を受け大手メーカーが工場の操業を一時停止。供給が細り、国内の在庫は低水準です。
 - ・マレーシアで環境保護が目的の新税導入も見込まれ、値上がりは続く公算が大きくなっています。建設コストを一段と押し上げそうです。
 - ・国内の合板市場で輸入品のシェアは5割弱を占め、大半が南洋材合板です。
 - ・工務店向け卸価格は、普通合板が12月初めに比べて2%上昇しました。2017年初めからの上昇率は3割に達し、過去30年で最も高くなりました。
 - ・構造用合板（厚さ12ミリ）も2017年1月初めに比べ5%高となりました。
 - ・インドネシア産型枠用合板の2018年1~2月積み価格は5%高で決着。2017年初比で26%上がりました。
 - ・マレーシアでは2017年12月~2018年1月積みの型枠用合板の価格交渉は難航し、2017年12月積みは見送り。1月積みは2%引き上げで合意。2017年初と比べ29%高。
 - ・国内の輸入合板在庫は10月末時点で前年同月比10%少なくなっています。
 - ・マレーシアでは主産地のサラワク州政府が2018年1月に新税「森林復旧税」（仮称）を課すとの見方が強くなっています。
 - ・輸入合板は今後一段と値上がりする公算が大きくなっています。
- （2017年12月26日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

